

大気汚染公害と気候変動問題

2016年5月18日
NPO法人地球環境市民会議 (CASA)
専務理事 早川光俊 (弁護士)

CASA

お話すること

- 西淀川大気汚染公害裁判について
- 公害問題と気候変動問題の共通性
- 被害者は生物的・社会的弱者
- 絶対不可逆的損失の発生
- 増え続ける子どもへのぜん息
- 気候変動対策は大気汚染にも便益をもたらす
- 世界で大気汚染で800万人が死亡。

CASA

西淀川大気汚染公害裁判

裁判の概要

- 原告 西淀川区内の公害認定患者 (726名)
- 被告 固定発生源 (関電、住友金属、神戸製鋼、旭ガラス大阪ガスなど10社、18工場)
移動発生源 (国・阪神高速道路公団)
- 請求の内容
損害賠償汚染物質の差止 (SO₂、NO₂、SPMを環境基準以下に)

経過 1978年提訴。一審判決まで13年。解決まで20年。

結果 和解 (解決金39億9000万円)。国などと排ガス公害改善の協議機関の設置。

CASA

西淀川の大気汚染



西淀川区の工場群。中央で赤茶けた煤煙を吹上げているのが大阪製鋼の煙突。右下の灰色の煤煙は古河鋳業の工場の煙。下部の中央から左にかけて淀川製鋼の工場が見える (1960年代)

CASA

1964年頃の尼崎の石炭火力発電所



CASA

全国の大気汚染裁判

地域	提訴日	原告数	被告	判決内容
四日市	1967.9	12	企業6社	損害賠償（共同不法行為認める）
千葉	1975.5	431	企業1社	損害賠償
西淀川	1978.4	726	企業10社と道路	損害賠償（共同不法行為・道路公害認める。）
川崎	1982.3	440	企業13社と道路	損害賠償（同上。）
倉敷	1983.11	291	企業8社	損害賠償（共同不法行為認める。）
尼崎	1988.12	498	企業9社と道路	損害賠償と差止（共同不法行為・道路公害認める。初めての差止認容）
名古屋	1989.3	292	企業10社と道路	損害賠償と差止（同上）
東京	1996.5	593	道路とメーカー7社	損害賠償

CASA

大気汚染公害問題と気候変動問題

- 発生源は同じ。
- 対策も共通。
- 基本的特徴も同じ。

CASA

発生源の共通性

- 大気汚染物質（ SO_2 、 NO_2 、SPM、PM 2.5）も、地球温暖化の主な原因の二酸化炭素（ CO_2 ）も、石炭や石油などの化石燃料の使用から発生。
- 主な発生源は固定発生源（火力発電所・工場）と移動発生源（自動車・航空機・船舶）。
- 産業別では、火力発電所、鉄鋼、化学など。

CASA

対策の共通性

□ 省エネ

化石燃料の使用の削減（化石燃料からの脱却）、交通量の削減。

□ エネルギー源の転換

再生可能エネルギーへのエネルギー源の転換。

CASA

基本的特徴の共通点

□ 被害者は、生物的・社会的弱者。

□ 絶対的不可逆的損失の発生。

□ 加害と被害の一方性。

CASA

生物的・社会的弱者が被害者

公害問題

- 大気汚染では、被害者の多くが子供と老人。水俣病の公式発見は4人の子ども、イタイイタイ病では経産婦。
- 大気汚染では労働者や庶民階級が被害者。水俣病では漁師。イタイイタイ病では農民。

気候変動問題

- 脆弱な生態系や希少種に絶滅の危機。
- 恵まれない境遇にある人々や地域社会により大きいリスク(IPCCAR5)
- 食料生産の減少や感染症などの影響は、女性や子供に。

CASA

絶対的不可逆的損失の発生

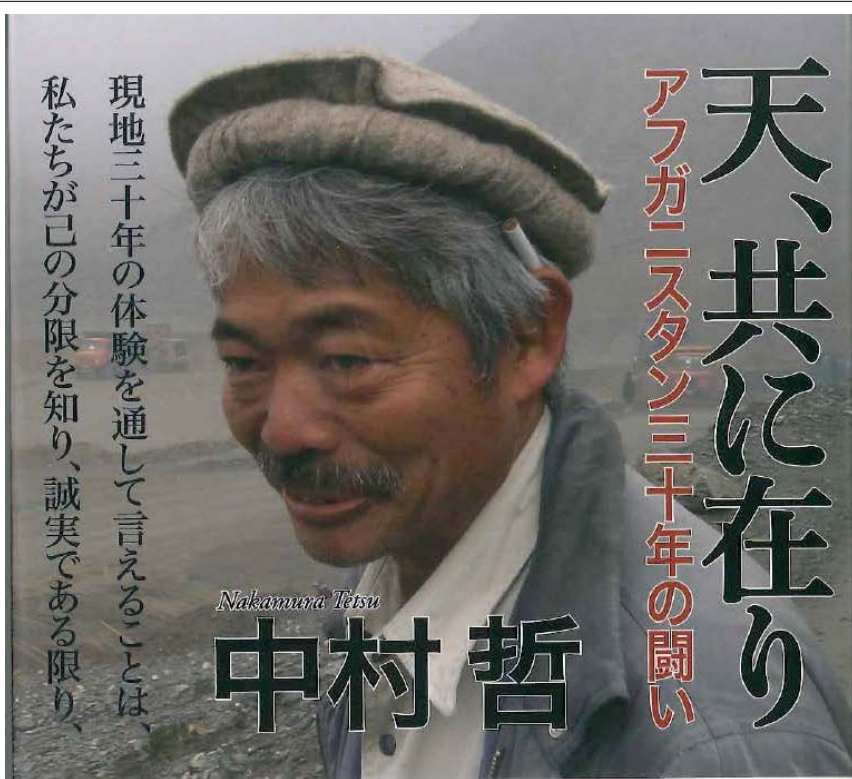
公害問題

- 健康被害と死亡。
- 自然の再生産条件の復旧不可能な破壊。

気候変動問題

- マラリアなどの感染症による死亡の増加・飢餓人口の増加
- 種の絶滅・生態系の破壊。
- 小島しょ国の消滅。

CASA



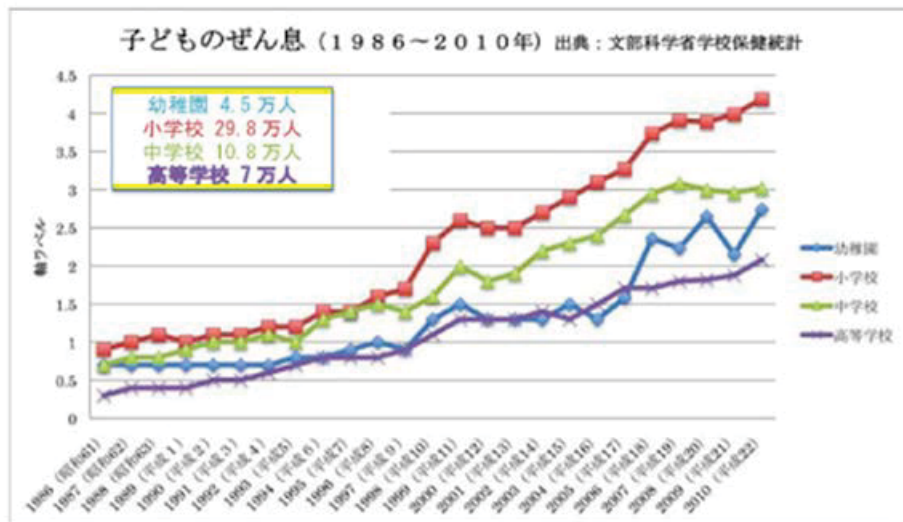
CASA

アフガニスタンと気候変動問題

- アフガニスタンを根底から打ちのめしたのは、内戦や外国の干渉ばかりではない。最大の元凶は、2000年夏以来顕在化した大干魃である。
- 巨大な貯水槽をなしていた万年雪が年々減少し・・・小雨が加わると水欠乏は極限に達した。積雪の多い年は、春から夏にかけて急激な雪解けが洪水を成し、あっという間に雪が消えてしまう。
- 人口の半分以上が被災し、400万人が飢餓線上、100万人が餓死線上。食料生産は半分以下に落ち込み、家畜の90%が死滅した。干魃の犠牲者の多くが幼児であった。
- 飢えや渴きを薬で治すことはできない。医療以前の問題である。洪水と渇水の同居。この気候変化に対応することが何よりも優先されるべきであった。

著書「天、共に在り」からCASA

増え続ける子どものぜん息



CASA

そらプロジェクト

- 2005~2009年までの5年間にわたって、延べ30万人を対象に実施された「局地的大気汚染による健康影響調査(そらプロジェクト)」。
- 3つの調査: ①学童の追跡調査、②幼児の症例対象調査、③成人調査。
- 結果
 - 自動車排ガスが小学生のぜん息発症率を高めている。
 - 成人でも幼児でも、自動車排ガスがぜん息など呼吸器疾病を引き起こす原因。

CASA

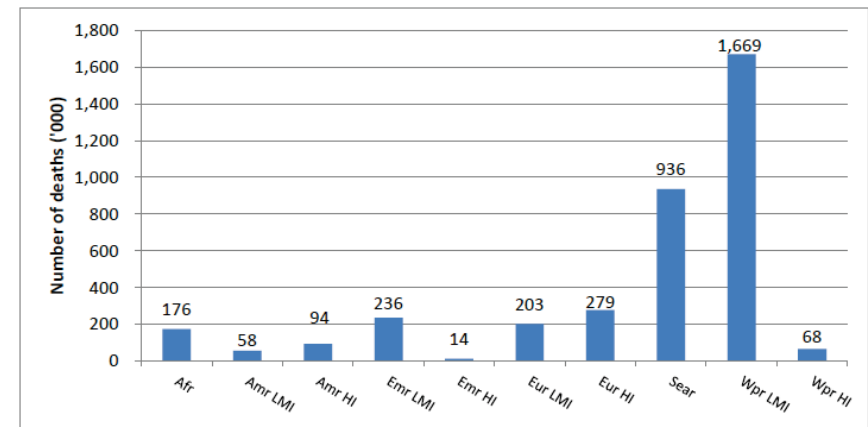
大気汚染で800万人死亡 (WHO報告書)

- WHOがPM2.5など大気汚染での死者が、2012年に推計800万人超だったとの報告。
- 屋外の大気汚染による死者は世界で370万人。
- 屋内の大気汚染による死者は世界で430万人。
- 大多数が中印両国での発生と考えられる。

CASA

屋外大気汚染の地域別死亡者

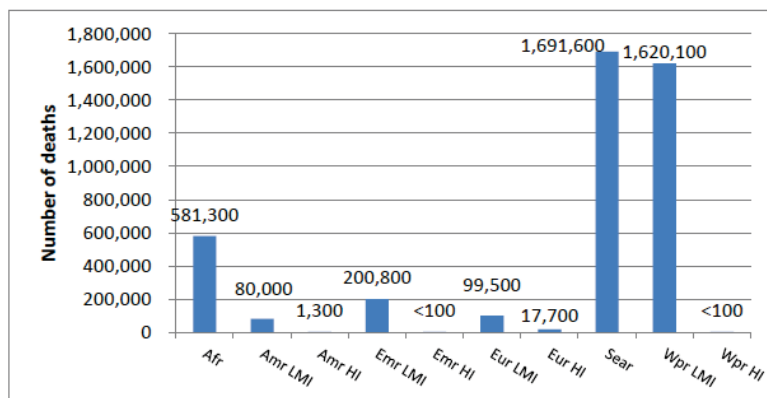
Figure 1. Total deaths ('000) attributable to AAP in 2012, by region



AAP: Ambient air pollution; Amr: America, Afr: Africa; Emr: Eastern Mediterranean, Sear: South-East Asia, Wpr: Western Pacific; LMI: Low- and middle-income; HI: High-income.

屋内大気汚染の地域別死亡者

Figure 1. Total deaths attributable to HAP in 2012, by region



HAP: Household air pollution; Amr: America, Afr: Africa; Emr: Eastern Mediterranean, Sear: South-East Asia, Wpr: Western Pacific; LMI: Low- and middle-income; HI: High-income.

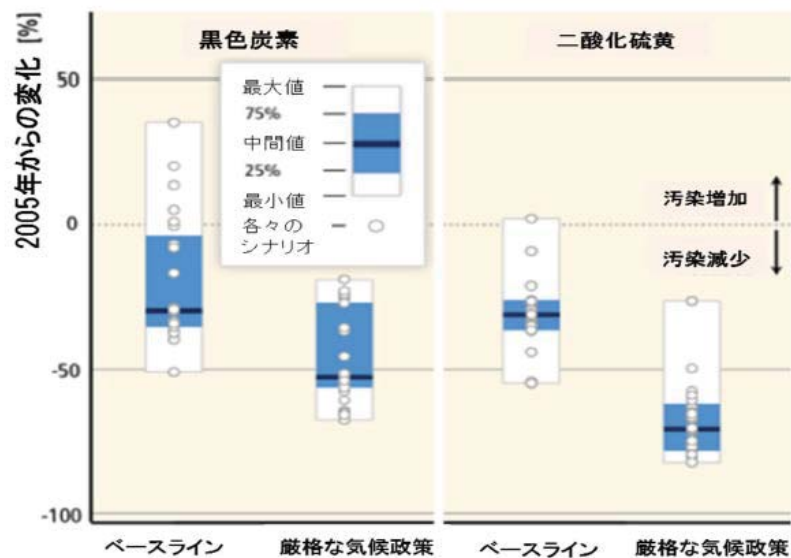
CASA

IPCC第5次評価報告書 (AR5)

- 450・500ppmシナリオ（低炭素シナリオ）では、**大気汚染とエネルギーセキュリティの目的を達成費用を減らす**とともに、健康、生態系、資源確保、エネルギーシステムの強靱性向上といった明確なコベネフィット（便益）が存在。
- 大気汚染物質の大幅減は、健康・生態系影響低減による便益をもたらす。

CASA

大気汚染質に与えるコベネフィット



CASA

石炭火力の新增設など論外

- 石炭火力を新增設することは、明らかにパリ協定に逆行する。
- 現在も大気汚染は解決しておらず、公害被害者を苦しめ、新たな公害被害を発生させることになる。
- 大気汚染公害被害者の願い
 - 手渡したいのは青い空！
 - すべての被害者にせめて医療費だけでも！

CASA